

# 1人ひとりに最適なお支援の提供を目指し 病院・老健・特養・居宅の有機的連携を高める

退院後、その方がどのような生活を送るのが最適か。とりわけ高齢の患者さんは、ご本人だけでなく、ご家族にも関わる大きな問題です。このため、京都伏見しみず病院グループでは、その方の生活背景も含めた本当の意味でのご支援となるよう、相談員・介護支援専門員が窓口となり、地域の皆様のご相談に応じさせて戴いています。

## 24時間365日体制の病院がバックアップ 気さくな医師が生活アドバイス

当グループは、京都伏見しみず病院を中心施設とし、介護老人保健施設「京しみず」「第二京しみず」、特別養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウスなどを運営する高齢者総合福祉施設「いでの里」、そして在宅部門として「医療法人清水会居宅介護支援事業所」、訪問看護・訪問介護ステーション「すみよし」を運営することで、継ぎ目のないサービスメニューをご用意しています。

最も気を配っているのは、転院や在宅に戻られる場合、患者さんやご家族に不安を抱かせないことです。とりわけ、ご家族については、電話だと声のトーンだけでは、どういった点に不安を感じておられるのか把握が難しいので、極力、対面でご相談をさせて戴くよう努めています。

当院では物理的な距離も心の距離も近く、いつでも主治医から利用者さんは支援のアドバイスを受けられる環境にあります。退院後、施設に移られる場合も、グループ内での顔の見える連携を活かし、スムーズな対応をさせて戴いています。24時間365日の安心あるバックアップ体制の一員として、さらに努力をしてまいります。



京都伏見しみず病院  
看護部 相談員  
**内藤 佐智子**



介護老人保健施設「京しみず」  
支援相談員  
**大木 文子**

## めざすは気軽に相談できる地域のよろず相談所 多職種協働で効果的な支援を行っています

介護老人保健施設の入所には、病院から退院される場合、他施設や在宅から来られる場合など様々なケースがありますが、その環境変化に伴う不安を取り除くのが一番大切なことです。もっとも相談員だけで不安を解消することは出来ません。療養棟のスタッフと一緒に、その方に合わせた対応を図ります。そのために我々相談員は、面談の際にご本人さんの情報を細かいところまで収集します。その情報が多くあれば、入所される方が不安になられた時に、より効果的な対処法、解決法を見出すことにつながります。

また、入所後も療養棟でのご様子の把握に努めております。もし、不穏状況がある場合は、療養棟スタッフと一緒に相談し、精神的負担を軽減し入所生活が継続できるようディスカッションを行っています。お一人おひとりの方に合った支援を行うため、いわば施設全員がチームとなって対応させて戴いております。

“施設”というと、ちょっと特別なところのように感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、お困りのことがあれば、お気軽に何でもお尋ね下さい。私達は地域に開かれたよろず相談所となることをめざしています。

## 利用者さん及びご家族との信頼関係が大切 相談されやすい雰囲気づくりで傾聴に努める

入所にあたっては、まず家族さん、利用者さんに京都伏見しみず病院グループ全般と、第二京しみずのグループ内の役割・方針を十分に説明します。その後ケアマネジャーが施設内の医師・看護職・介護職・リハビリスタッフ・管理栄養士と連携してケアプランを作成します。



介護老人保健施設「第二京しみず」  
支援相談室 主任 介護支援専門員  
**東 公子**

その方に合った適切なプランを立てる上で、大きな課題となるのが生活実態や本当の思いを正確に掴むことです。その上で、利用者さんの人権を守ることを意識し、支援内容を考えていきます。

利用者さんやそのご家族が、いきなり心を開いて、全て伝えて戴けるということは現実的に難しい面があります。的外れな支援にならない為に、何より信頼関係の構築が欠かせません。それには、いつでも笑顔で接し、お話を聞き、常に相談を受け入れる雰囲気をつくるよう心がけています。例えば利用者さんに、ひ孫さんの写真を見せて戴いた時など、思いを共有してくれる安心感の芽ばえを感じて嬉しいです。

京都伏見しみず病院グループの一員として、これからも密に連携を図っていきます。また、グループを利用して良かった、安心して生活できたと感じて戴けるように支援していきたいと思います

## グループ相談員による顔の見える連携で スムーズな対応力を発揮しています

病院や在宅復帰をめざす介護老人保健施設と違い、特別養護老人ホームは、安心できる終の棲家をめざしています。そのために、入所者さんが、集団生活の中で気をつかったり、ストレスがたまったりしないように、個別に外出したり、趣味を気兼ねなく続けてもらえるようにするなど、家庭に近い環境づくりに努めています。

安心して戴くために、特に注意が必要なのは、病院や介護老人保健施設から入所者さんが移って来られる入所時の対応です。身体の状態、性格、ご家族の様子など、事前に情報を掴むことで、よりスムーズな対応をとることが出来ます。そのために欠かせないのが、我々京都伏見しみず病院グループの連携です。



特別養護老人ホーム「いでの里」  
生活相談員

**中江 裕子**

現在、病院・施設の相談員が毎月集まり、情報の交換や共有を図るとともに、困難ケースの事例研究などを行っています。担当者が一生懸命になり過ぎてしまうと、周囲の色々なことが見えなくなってしまうこともあります。こうした機会に他の相談員からの確かな意見を戴くと、はっとすることも少なくありません。相談員同士の、文字通り顔の見える連携を密にすることで、情報共有や対処法の蓄積などを図り、グループとしての対応力をさらに高めていきます。

## グループスタッフ全ての思いは一つ お一人おひとりを支えていくチームです

病院で治療を終えられ、スムーズに在宅に戻る支援をするのが病院の居宅介護支援事業所の役割です。これから介護に初めて向き合われる方もあれば、在宅介護をしていて一時的に入院された方もおられるなど、様々な方と関わらせていただきます。

大切なことは、退院される方、そのご家族がこれから在宅の介護をどのようにされるのかをきちんと把握していくことです。そのためには、色々なメニューを出して、「どうぞ選んで下さい」というサポートではなく、丁寧にお一人おひとりの置かれている状況を見極めて相談にのっていただくことが欠かせません。

時には診察室に同行し、患者さんと医師の橋渡しになることもあります。また、医師が私達の事務所に立ち寄り、色々とおアドバイスを戴くこともしばしばです。医師も看護師も、また他施設の相談員も私達も皆、患者さんを支える同じチームです。思いは皆同じで、どうすれば患者さんにとって一番いいのか、打てば響くような対応をして戴いています。当院を頼っていただく方に満足していただきたいし、また在宅や施設介護をされる方にとっても、当グループがあつて良かったと思っただけのよう、チームの一員として頑張っていきます。



医療法人清水会居宅介護支援事業所  
介護支援専門員

**坂口 由美子**